

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		キッズデイサービスらくだ 竹尾店		公表日		令和 7 年 3 月 26 日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		配置基準を満たすだけでなく、安全に見守りが出来るように人員を配置しております。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		視覚支援で絵カード、テープなどで構造化された環境に配慮しております。	施設内外に段差があるため見守りを強化しております。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		心地よく過ごせるように消毒や掃除を活動前後に行っております。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		個別の部屋は誰でも使用できるようになっていますが、タイミングが重なった時には、マットなどで仕切った個室空間を提供しております。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○		全職員でミーティングを行い、情報共有しております。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○		頂いた意見や要望を全職員で把握し、ミーティングで話し合い、業務改善に努めております。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○		定期的に職員の面談を行い、意見を聞く機会を設けている他、毎日のミーティング時にも意見を述べる機会を作っております。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○			評価していただく機会は少ないので、見学等の案内をして評価の機会を増やしていきたいと思っております。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		○		研修の年間計画を作成し、社内研修や外部研修を受講しています。来年度からは外部の研修ツールを活用して、より良い研修の機会を設ける事になっています。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○		職員間で話し合いを行い作成して、公表しております。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		○		日々の記録を元に課題やニーズを把握して、作成しております。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		○		作成する際には職員間で話し合い、意見を出し合いより良い計画になるよう工夫しております。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		○		新しく作成した時には全職員に共有して、計画に沿った支援を行っております。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		記録ツール（HUG）を用いて記録を保存して、記録を元にアセスメントを行っております。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		○		職員間で話し合い具体的な支援内容や時期を設定しております。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○		偏りがないように職員がローテーションを組んで立案しております。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		○		活動後には職員で反省を話し合い、日々改善して固定化しないように工夫しております。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		職員間でこどもの成長段階を見極めて、児童発達支援管理責任者を中心に作成しております。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日、ミーティングの時間を設定しています。それ以外にも、職員が個々に役割などを確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		当日に打ち合わせができない時には翌日に共有しています。また、共有した内容をノートにまとめて、不在の職員とも共有しております。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録ツール（HUG）を用いて日々の記録をしております。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリング時期を一覧にして、漏れがないようにしております。	より広く職員間で話し合い、より良い計画にしていきたいと思います。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		『創作活動をする』ために『買い物に行く』など日常生活の充実の活動に向けて組み合わせ合わせて支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		個別活動や余暇活動では職員が決めるのではなく、児童の皆さんに選択してもらう事を心掛けております。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者が必ず参加するようにしております。	他の職員も参加できる機会を設けていきたいと思ひます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校の見学や教育機関との連絡を密に取って連携を強化に努めております。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		送迎時やお迎え時に学校での様子やらくだ内での様子を伝えあい、より良い支援に繋げております。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保育所を訪問したり、情報をお聞きしたりして不安なく通えるように努めております。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		開催時には共有する情報をまとめて、参加させて頂いております。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			受講する機会をより増やしていきたいと思ひます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		焼き芋パーティーの際には系列店や他事業所を招待して交流する機会がありました。	まだまだ機会は少ないので、増やせるよう計画していきたいと思ひます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や面談の際にお伝えする機会を設けております。また、支援ツール（HUG）を活用してオンライン上で情報提供も行っております。	
保護者への	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		日々の過ごし方を保護者の方に見学していただき、必要に応じて面談の機会を設けるように努めております。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		面談時に必要な資料を用意し、丁寧な説明を行なえるよう努めております。	
	36	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談時にご本人、保護者の方のご意向を確認しその意向に沿って計画を作成しております。	
	37	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		面談時に計画の説明をし、同意の上で計画にサインを頂いております。	
	38	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		見学や送迎時に相談があった場合には助言を行い、その場での返答が難しい場合には職員間で話し合いをして助言や支援を行うよう努めております。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○			来年度は保護者会を開催する事を前提に計画中です。

説明等	40	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応の担当を設置し、迅速に対応できるように努めております。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		支援ツール（HUG）を用いて、活動の様子やイベントの案内を発信しております。	頻度や機会を増やして情報発信に努めて参ります。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報は鍵付きのロッカーに保管し、取り扱いに十分注意しております。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		絵カードやタブレット端末等を使用して発語以外の意思の疎通、情報伝達に配慮しております。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		他事業所のイベントに参加したり、事業所でのイベントに他事業所を招待する機会がありました。（焼き芋や高齢者施設への訪問等）	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		毎月避難訓練を実施し、実施した時には周知に努めております。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		訓練以外にも非常時の備品の点検を行っております。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		てんかん発作等のマニュアルを送迎車にも用意して、職員間で共有しております。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーのある方の一覧を作成し、指示書もあれば確認して事故の内容に努めております。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全管理のため消防署の方にも定期的に確認して頂いております。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		訓練を実施した時には避難先や連絡手段を保護者の方に周知するよう努めております。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットがあった時には報告書を作成し、改善案などを職員間で話し合っております。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		必ず毎年虐待防止研修を実施しております。また、毎月事例が無かったのかを職員同士で報告する時間を設けて防止に努めております。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束にならないような支援を職員間で共通認識としておりますが、やむを得ない場合を想定して保護者の方に説明を行い、同意を得ております。		

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	キッズデイサービスらくだ			
○保護者評価実施期間	2024年 11月 18日		～	2024年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	2024年 11月 18日		～	2024年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 26日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・お出かけ、外出の機会が多い。	・ご利用者様が外出行事を通して社会経験を積み重ねていくことや、お買い物などで金銭感覚を養うための実践などに意識している。 ・様々な場に出かけることで五感など、感受性や友達と気持ちを共有する機会に繋げている。	・外出先のバリエーションを増やしていく。 ・学年や障害特性などに考慮して小人数などに分散して、様々な体験活動が行えるような環境の構成。
2	・ご利用者様一人一人の課題に対して、様々なアプローチを試みている。	・日頃からミーティングで職員間での情報共有を重ねて、より良い支援について検討している。 ・様々な職種や経験のある職員がいて、アイデアが多彩。	・学校等関係機関での取り組みや連携を強化して、参考にしていく。 ・研修や資格取得に向けた積極的な取り組みから職員の資質向上や専門性を高めていく。
3	・ご利用者様、保護者の方への職員の雰囲気。	・保護者の方々から相談しやすい雰囲気や誠意のある温かい対応を意識している。 ・若い職員が多く、熱意と向上心を持って職務に当たっている。 ・ご利用者様一人一人への愛情が深く、成長段階、障がい特性に寄り添って支援している。	・保護者会の開催や面談の機会を設けて、連携をより強められるようにしていく。 ・上段と同様に一人一人が研鑽に励み、専門的な視点からの助言や支援を行えるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・情報発信力や内容(活動内容、職員体制、マニュアル関連、保護者会や研修等、保護者の方に向けた情報)	・専門的な知識やスキルの不足。 ・情報の発信の仕方、工夫の不足。 ・保護者の方に向けての交流、関わりの機会の不足。	・スキルアップに向けた研修の受講 ・学校や関係機関等との連携強化 ・普段の支援の様子を見て頂く機会や保護者会やペアレントトレーニング等の家族支援に繋がる支援の強化
2	・複数人での社会経験の機会(買い物等のお出掛け)はあるが、個人で経験してもらう機会が少ない。	・職員体制上、人員が割けないこと。 ・障害特性や学年、年齢の幅が広く個々で経験する場を設けることが難しい。	・らくだの中での模擬訓練等、工夫を凝らしていく。 ・高学年を中心に新店舗での職業訓練の実施を予定。(令和7年度より)
3	・季節行事の活動や装飾等の環境設定が少ない。	・障害特性などを考慮して、あえて気になる装飾などを少なくして活動に集中できるようなねらいの設定をしている。 ・日々の活動や課題の充実に力を入れたり、装飾や季節行事への意識が薄くなっていったため。	・課題内容に季節や用事に関連するものを盛り込んだり、活動に支障のない場所への掲示や設置に配慮をしていく。